

武内市長の新年度予算案 生活保護費を16億円も削減して「稼げるまち」づくりに

武内市長が、生活保護費を16億円も削減する予算案を提案しました。

国は、保護費を引下げ続け、裁判では国の敗北が続いています。それなのに、生活に最も困窮している市民の最低生活費を、市長が16億円も削って、これを「稼げるまち」づくりのために使うというひどいものです。

西日本新聞によると、市長は「もん絶する時期を迎えるが立ち向かっていきたい」と語り、「市民いじめ」を自覚しています。

生活保護の捕捉率は約2割で、保護利用者の約4倍の方が保護を利用していません。この改善こそが急がれます。

生活保護費は、生活に困窮している市民に支給され、その金額のほぼ全額が市内の八百

屋さんや魚屋さん、医療機関などで使われ、そのお金は市内で循環します。

北九州市の経済や市民生活にこれほど大きな貢献をしている予算は他にありません。

保護費の1/4は北九州市が負担する建前ですが、のちに国から交付税措置が行われ、保護費のほぼ全額は国が負担しています。

ですから保護費を16億円削っても、国からくるお金が16億円減るだけで、「稼げるまち」づくりに流用することはできません。

削った16億円を何につかうのか。予算案には「空港の機能活用16億円」「企業の付加価値向上15億円」等があります。これらの経費を生活保護費削減でまかなうことは容認できません。真に必要な経費なら別の方法でまかなうべきです。

えっふーん

大変な今、「希望を語ろう」

ウクライナへのロシア侵略戦争、ガザへのイスラエル攻撃。中国もひどいし、核保有国も増えています。地球環境も悪化し、自然災害が多発。トランプが米大統領に復活する兆しも。

年金は下がる、給料は上がらない。維新が議席を増やし、野党共闘も進まない。今、世の中は悪いことばかり、いい話は「大谷選手」だけ。

世界も日本も悪い方向に進んでいるようにも見えます。

確かに深刻な問題は多くありますが、よく見ると、明るい展望も広がっています。

世界の多くが、ロシアとイスラエルを批判し、ひどい解説を行っていたテレビのコメンテーターも、口をそろえてイスラエルやトランプを批判しています。世界の多数が“SDGs”など、地球環境改善にも動いています。国連で核兵器禁止条約もできて核兵器は「悪」になりました。

首相が企業に賃上げを求めることは当然になりました。安倍元首相の評価も下がり、自民党の首相までが「失われた30年」と言っています。

裏金事件解明が自民党内で進むと思うかに91%が進まない。派閥幹部が説明責任を果たしていると思うかに思わないが93%。記載しなかった議員は辞職をすべきが65%、国民は健全です。

高校生までは、純粋でピュアです。しかし、大学や職場で大きく右寄りに変化しています。

「政治家が悪い」と言われますが、悪い政治家を追及する“良い政治家”が沢山いることを知らせましょう。

実存主義者のサルトルは、亡くなる直前に「世界はみにくく不正で希望がないように見えるが、希望の未来を語らなければならない」と言いました。みなさん、大いに希望を語ろうではありませんか。



入浴は、ヒートショックより、長風呂が危ない

本会報の54号に、入浴時のヒートショック（寒暖差による衝撃）の危険性について掲載しましたが、長風呂の方が危険と言う調査が発表されました。

西日本新聞によると、千葉科学大大学院の黒木尚永教授が65歳以上の3千人を調査し、入浴時に具合が悪くなったと答えた中で、ヒートショックの疑いは7.1%に対して、熱中症（疑い含む）は84.2%にのぼりました。

2022年の交通事故での高齢者死亡数は2154人、浴槽での死亡数は5424人です。

教授によると、入浴で体温が上がるのは体に良いが、体温が39度を超えると熱中症になり注意が必要です。

42度の風呂では、10分間で体温が1度上がるとされ、26分で体温が40度になるといいます。体温が42.5度を超えると突然死もあり得ます。

70歳以上の方は熱を感じにくくなります。子どもや細身の人、熱がある人も長湯は避けたほうがいいです。特に、高齢の皆さん気を付けましょう。



小倉生健会
生活と健康を守る
一人はみんなのために、みんなは一人のために

陳情で「重度障がい者タクシー券」一部改善

生健会が、市議会に「重度障がい者向けのタクシー割引券は、その月限りの使用制限があり不便。使いやすく改善して」と陳情していました。

先日、市から「3ヵ月単位で使える」制度にすると発表されました。半歩前進と歓迎されています。

素敵な公園の長いすは、「昼寝防止対策」

公園のベンチにすわり、本を読みながらゆっくりした時間を楽しんでいる姿を見ると憧れます。しかも、ひじ置きまでついて「素敵だな」と思っていました。



勝山公園の素敵な形をした「排除ベンチ」

ところが、目的は「ホームレスの人などが横になり、寝るのを防止するため」の「排除ベンチ」と知り「へー ヒドイ」と思いました。

ご希望の方は、ご連絡を

小倉生健会に寄せられた、加湿器・トースター・整理棚・男性用(L~XL)衣服類(防寒着・マフラー・シャツ・短パン・Tシャツ等)をご希望の方は、八記(090-1361-0876)に電話下さい。持参します。



「おにぎりたべたーい」から18年 今も硫黄島作戦続行中か

請願権逸脱 生活保護事実無根答弁



中央は口頭陳述する田中一郎さん。手前は市議会議員。壁際は傍聴者。田中さんのすぐ後ろは保健福祉局職員。

蔑ろにされた議会審査に怒る議員まばら

いっそ、委員会も本会議並みに中継したら

請願権は憲法16条に保障された国民民主権そのものではない虚偽答弁を行うと、市議らはその答弁を鵜呑みし、審査を行うことになる。もつと言えは当局の「意思」で審査の行方を左右させることは十分可能だ。その意思に気が付かず通り過ぎるというなるのか。

生活保護行政では保護申請もさせない「水際作戦」で餓死者が連続した2006年から今年19年になる。世界に発信された「おにぎりたべたーい」と綴って屋根のない家で餓死

(旬刊毎月1の日発行)
発行所
北九州市小倉北区田町
12-15 大明ビル3階
小倉タイムス
電話 (953) 6061
FAX (953) 6062
(郵送購読 半年5千円)
振替 01720-4-22358

編集方針
一、戦間的自由主義で痛快な紙面
一、資本家本位の街づくり反対
一、ファシズムの復活反対
一、いっさいの差別反対、市民権の自由、平等

千賀子議長)。「生活保護の実施等に関する陳情審査における当局答弁の曖昧さの改善を求め」を陳情し、口頭陳述後、審査が行われた。

写真中央の田中一郎さんが陳述した。昨年5月17日に、同「生活と健康を守る北九州協議会」は「生活保護の自立更生費の周知徹底と積極的な活用」を、11月9日には「自立更生費の活用や住宅補修にあたっての2社見積りもりの改善を求め」陳情をしてきたことを披露した。

その2つの陳情審査で当局答弁が事実と乖離し、実態と異なる答弁を行ってきたことを綴り指摘している。田中さんは言う「毎回、法令の定めに沿って適切に行っている」と言うが5月17日の答弁では「保護開始時と毎年1回、生活保護のしおりをお渡しすると共に確認書を出していた」とあり、その際に自立更生費について説明を行っている「必要額を一部控除すること」が可能な場合があり、生活用品が壊れて使用できない等、ふだんの生活に困っていることがあればケースワーカーに必ず相談するように、丁寧にご説明をする」と当局答弁をなぞった。

この当局答弁の真偽を「生活と健康を守る会」は各区の生活保護利用者63人に調査したという。結果は説明を受けた者は62人で確認書を書いたひとは0人。興味深いのは、同団体が市職員のケースワーカーにも聞き取りをしている点だ。「指示?言われたことはない。聞いたこともない。そんな(読んでみさせる)暇がない」と。

陳述した田中さんは「当局の説明が嘘だ」とまでは言わないが、説明通りではない例がかなり存在している。それは、実施状況についての把握・説明が曖昧で紛らわしさがあるためだ。田中さんは①法令の定めを行うことが適切である

と、課長としては判断しているということなのか。②法令の定めに沿ってこれこれのを行うことが適切であると判断し、周知徹底などを行った結果、実施の状況は〇〇%と数量的に把握もしている状況なのか、という状況の違いが示されている、と言った。

田中さんは11月9日の陳情の自立更生費の活用や住宅補修の「2社見積り」にも触れた。同日の課長答弁は、「2社見積りもりは義務付けの法令があるわけではない。緊急な場合や中古品店の活用する際には1社のみ見積りもりも認め柔軟に対応している」と答弁した。

しかし、この答弁前の小倉南区の生活保護利用者宅でトイレの排水パイプが詰まった対策をケースワーカーは「2社見積り」が必要と述べ手持ち金、保護費からわずかな差をつかって修理すれば早くできる旨を指導し、同生活保護利用者は自腹で修理を行っていた事例を挙げた。

門司区での事例は老朽化した市営住宅居住の生活保護利用者が新築市営住宅に当選。引越しの「自立更生費」活用をケースワーカーに言うと保護課から「2社見積りが必要」と言われた。だが市議会での陳情審査での課長答弁を引用しもう一度、保護課に言いに行く担当者の対応が一転。

「1社のみ見積りも認めると柔軟化した」と。共産党の荒川議員は「課長から部下に徹底する必要がある。(利用者が)納得できない時のすくい上げるシステムあるか」に課長は「ケースワーカーへの不満は本庁の保護課長を指名

生健会 北九州ブロック協議会の市議会陳情
「小倉タイムス」紙が、詳細を報道